

## 郵政民営化委員会（第54回）議事要旨

日時：平成21年2月24日（火） 10：00～12：00

場所：永田町合同庁舎3階 郵政民営化委員会会議室

（委員5名出席）

○ 本日は、郵政民営化の推進状況について、意見書骨子案に基づき、意見書取りまとめに向けた委員による意見交換が行われた。

これに対し、委員からは

- ・郵政民営化とはそもそも何だったのか、その趣旨は何かといったことを改めて意見書の前文に記述すべきではないか。
- ・経営者は、①利便性の向上、②事業価値の向上、③民間秩序への整合的な一体化の3つを合わせて行うという、「針の穴にラクダを通す」ような重い責務を負っているということにも言及すべきではないか。
- ・郵政民営化は、旧郵政事業庁時代から引き継いだ、経営的にみれば負の遺産というようなものを抱えての、いわばマイナスからのスタートであり、また、郵便物や貯金・保険契約が長期的に減少するという厳しい状況でのスタートであったにもかかわらず、黒字決算を出しているということについては評価すべきではないか。しかし、問題も多々発生しており、その解決が大きな課題であるということではないか。
- ・民営化会社だけでなく、政府を含めた関係者全体の取組についても言及すべきではないか。
- ・金融二社については、株式の上場に当たり、今後展開する商品ラインナップを示していくことが重要である。両社には業務規制があるが、事前に規制を緩和して、商品を増やすなど上場に向けた準備が進めやすい環境を作っていくべきではないか。また、これまで金融二社は新規業務に取り組んできたが、その競争関係に与えた影響についても触れるべきではないか。今までの展開を見ると、規模に物を言わせたり、過剰にディスカウントするようなこともなく、慎重かつフェアに対応してきているように思う。
- ・郵政民営化は国民の理解を得て進める必要があり、そのためには民営化プロセスにおける透明性の確保が重要である。

等の発言があった。

○ 次回委員会の開催日程等については、別途事務局から連絡することとした。

（注）以上は事務局の責任でとりまとめたものであり、速報のため事後修正の可能性があるのでに御留意下さい。また、詳細については追って公表される議事録をご覧ください。